

<巻頭言>

部会運営と原子力学会50周年誌と

(財)電力中央研究所 松村 哲夫

学会から本年(2009年)4月に原子力学会50周年記念号を出すので、炉物理部会の活動報告を寄稿するようにと依頼されたのが昨年7月。その後、前原子力安全委員会委員長の松浦先生やJAEAの森氏に執筆を依頼するとともに、炉物理部会(当初は炉物理連絡会)の歴史を本誌「炉物理の研究」などから見直してみました。仕上がりは原子力学会50周年記念号をご覧くとして、50年(炉物理連絡会・部会は32年)の経緯が何となく見えてきました。炉物理研究の発展の歴史と言いたい処ですが、必ずしもそうっていないのは皆様も感じてられるのではないかと思います。炉物理研究も原子力開発の経緯と、影響し合っていると思います。

炉物理部会長も、従来は、大学やJAEAの先生方の持ち回りの感がありましたが、民活の影響もあり、産業界からも願う方向に変わりつつあると思います。「歴史の転換点」との言葉は皆さん使いたがりますが、国主導の原子力開発が変わりつつあるのかも知れません。炉物理研究においても、民間・産業界の活躍がより一層期待されていると思います。炉物理部会の運営についても、夏期セミナー開催、部会ホームページ運用、予算管理など、部会員の多大な貢献により継続していますが、本部会がより活動的、積極的となるには、さらに多数の部会員の意欲的な協力、支援をお願いしたいと思います。

炉物理研究をリードしてきた炉物理研究特別専門委員会が、原子力機構の発足に伴い2005年に廃止されるなど、炉物理部会の果たすべき役割は大きくなっています。このような背景の元、「炉物理の将来展望に関する討論会」を昨年6月に開催させて頂き、貴重なご意見・ご提言を賜りました。また「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会をJAEAの協力のもと昨年8月に本部会に設置し、活動を継続しています。これらが炉物理研究の活性化に役立つことを期待しています。

今後、「炉物理の将来展望に関する討論会」や「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会で頂いたご意見・ご提言を実現する努力が必要と存じます。なかなか、1カ年で進めることは叶いませんが、今後も、皆様とともに、炉物理部会を支えていきたいと存じます。

以上